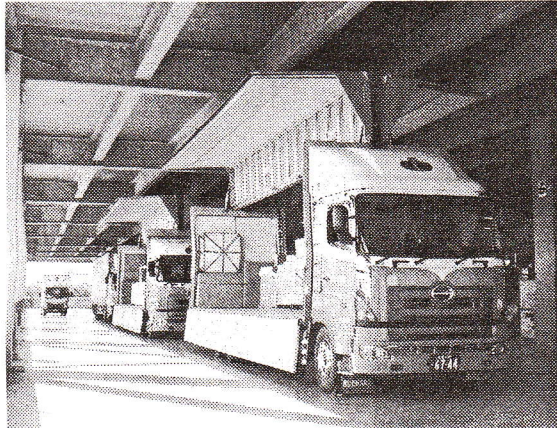


小山企業

【埼玉】小山企業（小山
嘉一郎社長、埼玉県戸田市）
は、運送主体の関連会社、



県内各拠点から荷物を集荷

ルートケーツー（小山忠社長、同）と連携し、運送事業を強化する。県内各拠点から荷物を集荷し、2月に新設した埼玉総合物流センター（草加市）で積合せし、一括配送を行う。将来的には、24時間稼働可能な物流センター機能を生かし、首

タール物流の要請は強く、倉庫業からサードパーティー・ロジスティクス（3PL）への脱皮を模索。リスク回避の観点から、それまで積極的に取り込んでこなかった運送に着目し、2004年ごろから運送事業に力を入れてきた。

業の平準化や人件費など物流コスト削減につながる」と提案。200か所の店舗を回って納品状況をリサーチし、地域性を生かした備車の選定と固定ドライバーによる高品質な店舗配送を実現した。

2月に三井倉庫の大型マ

運送事業強化、コアビジネスへ

都圏および主要都市への共同配送ルートを構築したい考えた。

従来は倉庫業がメインで、ルートケーツーの機能も印刷物の工場間転送など1次輸送に限定されていた。しかし、荷主からのト

まず取り組んだのが、営業倉庫部門の主要荷主であるシューズ専門店の店舗配送。ルートケーツーでは手掛けたことがなかった2次輸送の受託に挑戦した。小山企業が倉庫に加えて運送業務を受託することで「作

ルチテナント施設の4階に埼玉総合物流センター（床面積9900平方メートル）を開設したのを機に、さらに運送事業の拡大を狙っている。24時間稼働可能で、大型トラック32両が同時に横付けできる全天候型の物流

通関業の許可取得も目指す

センターで、ルートケーツーが小山企業の県内拠点などから集荷した荷物を同センターで仕分けし、積合せ一括納品する仕組みを整えた。

小山企業の運送事業はここ3、4年で急成長を見せており、11年3月期には運送事業の売上高9億円を目標としている。埼玉総合物流センターを東日本をカバーするハブセンターと位置付け、運送事業を営業倉庫・賃貸倉庫に次ぐコアビジネスに育てる方針。また、「総合物流化」の一環として、通関業の許可取得も目指している。

（石井 麻里）